

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	静岡県立大学
設置者名	静岡県立大学法人

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 【授業計画(シラバス)の作成過程】 各学部・研究科の教務委員を中心に構成される全学教務委員会において、授業計画作成のためのガイドライン(「静岡県立大学:シラバス作成のためのガイドライン」)及び作成スケジュールを審議・確認し、全学教務委員会から各委員(常勤教員及び非常勤講師)に対して、授業計画(シラバス)の作成を依頼している。 授業計画には、主に下記の事項について記載を求めている。 ・授業目的(一般目標)…学生が学習によって得られる成果を記載する。 ・到達目標…授業目的(一般目標)を達成するために必要とされる学生の行動目標を記載する。 ・授業方法…配布資料の使用、講義、グループワーク実施などを明記する。 ・授業展開(年間の授業の計画)…取り扱う内容を回ごとに記載する。 ・成績評価の方法・基準…小テスト、期末テスト、レポートなどの評価方法及びその割合、評価基準を記載する。 ・実務経験のある教員等による授業科目については、担当教員名に*を付すとともに、備考欄に「どのような実務経験をもつ教員等が、その実務経験を生かして、どのような教育を行うか。」を記載する。 【授業計画の作成・公表時期】 授業計画(シラバス)は6月以降、全学教務委員会で書式やガイドラインの内容を検討し、各学部12月より作成を開始している。2月中旬までに原稿を完成し、点検の後3月上旬に印刷会社に発注、3月末には履修要項の製本が完了し、4月初めの学部ガイダンスで学生に配布する。並行して4月初めには履修要項の全ページをホームページ上に掲載する。	
授業計画書の公表方法	学部ごとに授業計画や履修細則を掲載した履修要項をホームページ上で公開している。 https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/

	2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。
	(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 本学における学習評価は、履修細則及び担当教員の評価方針により、試験の成績、提出されたレポートの質の高さ、授業出席状況などの学生の学修実績に基づき、秀・優・良・可・不可または合格・不合格の評語で評定される。 評価の基準点数は、以下のとおりである。 ・秀 …合格 : 100 点～90 点 ・優 …合格 : 89 点～80 点 ・良 …合格 : 79 点～70 点 ・可 …合格 : 69 点～60 点 ・不可…不合格: 59 点以下 秀・優・良・可または合格と評定されたものには、当該科目の単位が与えられる。なお、科目の履修登録をしたにも関わらず履修しなかった授業科目は、不可または不合格と評定される。 各科目の具体的な評価項目については、シラバスに記載している。
	3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。
	(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 食品栄養科学部、国際関係学部、経営情報学部、看護学部については、成績評価の客観的な指標としてG P Aを活用する。 G P Aの算出方法は以下のとおりである。 ①G P (成績評価値)を「秀」＝4、「優」＝3、「良」＝2、「可」＝1、「不可」＝0とする。 ②「履修登録科目の単位数」×G Pをその科目の成績点とする。 ③「履修登録科目の成績点の合計」÷「履修登録科目単位数の合計」＝G P A (成績評価平均値)とする。 なお、履修を中止した授業科目については、G P A算出の対象外とする。 薬学部については、成績評価の客観的な指標として、以下の計算により算出された点数を活用する。算出方法は次のとおりである。 ①「100 点満点での素点 (評価点) ×単位数」を算出する。 ②「100 点満点での素点 (評価点) ×単位数」÷「指定科目の総単位数」＝成績評価点 とする。 指定科目は、次の科目である。 ・教養科目 (上位の成績 8 単位分) ・学部基礎科目 (必修) ・共通専門科目 (必修)、 ・共通専門実習科目 (必修) ・学科専門科目 (必修、選択、選択科目は成績上位の科目から必要単位数を満たす分のみを加算) ・学科専門実習科目 (必修)
客観的な指標 の算出方法の 公表方法	ホームページ上で公表している。 https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/guide/disclosure/hutankeigen/

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

全学及び各学部が定めたディプロマポリシーを踏まえ、履修細則で定めた卒業要件に従い、卒業を認定している。ディプロマポリシーや卒業要件は次のとおりである。

【全学ディプロマポリシー】

- 1 全学共通科目、基礎科目、専門科目、実験・実習、演習科目等を通して卒業に必要な単位を修得している。
- 2 専門性と総合的判断力を修得し、地域社会や国際社会で活躍が期待できる。
- 3 優れた論理的思考と外国語能力を有し、情報の共有と発信を的確にすることが期待できる。

【薬学部ディプロマポリシー概要】

以下に示した資質を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（薬科学）又は学士（薬学）の学位を授与する。

<平成30年度以降入学生>

(薬学科：6年制)

- 1 幅広い教養と語学力
 - ・医療人に求められる高い教養を身につけている。
 - ・グローバルに活躍できる語学力を有し、国際感覚を身につけている。
- 2 医療人としての倫理観
 - ・生命倫理及び患者の人権を最優先するという強い倫理観を身につけている。
 - ・患者の命を守るという強い責任感・使命感を身につけている。
- 3 高度な知識と技能
 - ・基礎科学に裏打ちされた最先端の医療知識と技能を有している。
 - ・情報共有及び課題解決に必要なコミュニケーション能力を身につけている。
- 4 高い臨床能力
 - ・医療現場で遭遇する様々な問題を発見・解決する臨床的な能力を身につけている。
 - ・薬物療法を提案・遂行する能力を身につけ、チーム医療に貢献できる。
 - ・医療薬学に根ざした研究を計画・遂行する能力を身につけている。
- 5 自己研鑽
 - ・医療人として、常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲を身につけている。

(薬科学科：4年制)

- 1 幅広い教養と語学力
 - ・国内外の様々な分野で活躍するための広範で深い教養を身につけている。
 - ・グローバルに活躍できる語学力を有し、国際感覚を身につけている。
- 2 科学者としての倫理観
 - ・生命の尊厳を守るための強い倫理観を身につけている。
 - ・社会や公益に対する研究活動の責任・使命を理解し、健全な科学倫理観を身につけている。
- 3 高度な知識と技能
 - ・物理学・化学・生物学を基盤とする薬学的基礎知識・技能とその応用展開能力を身につけている。
 - ・創薬・生命薬学研究に必要な複数の薬学専門領域に関する知識・技能を身につけている。

4 独創性と問題解決能力

- ・創薬・生命薬学研究者に求められる独創性や問題解決の基礎的な能力を身につけている。
- ・創薬・生命薬学研究を自ら計画・遂行する知識及び技術的基盤を身につけている。

5 自己研鑽

- ・創薬・生命科学に関わる研究者として、常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲を身につけている。

<平成 29 年度以前入学生>

(両学科共通)

薬学部においては、薬学人としての健全な倫理観をもち、先導的または指導的立場で地域社会の発展のみならず人類の健康長寿に貢献し、医療やライフサイエンス分野、創薬分野等においてグローバルに活躍できる高度専門職業人を育成します。

薬学部所定の期間在学し、学部の教育理念・教育目標に沿って設定した授業科目を履修して、基準となる単位数以上を修得することが学位授与の要件である。修得すべき授業科目には、講義科目のほか、演習や実習、フィールドワークや卒業研究論文作成等の科目が含まれる。

薬学部の卒業要件は、次表のとおりである。

(平成 30 年度以降入学生)

学科	教養科目	基礎科目	共通専門課程		学科専門課程		合計
			共通専門科目	共通専門実習科目	学科専門科目	学科専門実習科目	
薬学科	8 単位以上	22 単位	70 単位以上	12 単位	35 単位以上	46 単位	193 単位以上
薬科学科	8 単位以上	22 単位	70 単位以上	12 単位	10 単位以上	10 単位	132 単位以上

(平成 27 年度～29 年度入学生)

学科	教養科目	基礎科目	共通専門課程		学科専門課程		合計
			共通専門科目	共通専門実習科目	学科専門科目	学科専門実習科目	
薬学科	8 単位以上	25 単位	93 単位以上	17 単位	11 単位以上	41 単位	195 単位以上
薬科学科	8 単位以上	25 単位	79 単位以上	17 単位	2 単位以上	10 単位	141 単位以上

(平成 25 年度～26 年度入学生)

学科	教養科目	基礎科目	共通専門課程		学科専門課程		合計
			共通専門科目	共通専門実習科目	学科専門科目	学科専門実習科目	
薬学科	8 単位以上	25 単位	93 単位以上	17 単位	10 単位以上	39 単位	192 単位以上
薬科学科	8 単位以上	25 単位	79 単位以上	17 単位	2 単位以上	10 単位	141 単位以上

【食品栄養科学部ディプロマポリシー概要】

＜平成 31 年度以降入学生＞

以下に示す力を身に付けるために編成された教育課程において学修し、所定の期間在学して卒業に必要な単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（食品栄養科学）の学位を授与する。

（食品生命科学科）

- 1 幅広い教養を身に付けた上で、食と健康に関わる食品科学を理解するために必要な自然科学および情報技術などに関する基礎知識を有している。
- 2 食品科学に関する広範な知識と関連技術に基づき、食品に関わる諸問題の解決策を提示できる論理的思考力と問題解決能力を備えている。
- 3 食品科学に関する知識・技術・情報を自ら収集・理解し、それらを活用して研究する能力を備えている。
- 4 食品科学に関する専門英語を理解し、英語による基礎的なコミュニケーション能力を有している。
- 5 豊かな人間性と食の安全に対する高い倫理観を有し、協調性や指導力をもって他職種と協働・連携することができる。
- 6 食品技術者としての社会的な役割と責任を理解し、食品関連産業の発展に貢献することができる。

（栄養生命科学科）

- 1 幅広い教養を身に付けた上で、食と健康に関わる栄養科学を理解するために必要な自然科学および情報技術などに関する基礎知識を有している。
- 2 食と健康に関する広範な知識と関連技術を駆使して、栄養に関わる諸問題の解決策を提示できる論理的思考力と問題解決能力を有している。
- 3 栄養科学に関する知識・技術・情報を自ら収集・理解し、それらを活用して研究する能力を備えている。
- 4 栄養科学に関する専門英語を理解し、英語による基礎的なコミュニケーション能力を有している。
- 5 創造性あふれる豊かな人間性と栄養科学の専門家としての倫理観を有し、協調性や指導力をもって他職種と協働・連携することができる。
- 6 管理栄養士として人間の健康と長寿を支える栄養に関わる諸問題の解決に貢献することができる。

（環境生命科学科）

- 1 幅広い教養を身につけた上で、食と健康に関わる環境科学を理解するために必要な自然科学および情報技術などに関する基礎知識を有している。
- 2 食と健康に関わる環境分野の知識と技術に基づき、環境に関わる諸問題の解決策を提示できる論理的思考力と問題解決能力を備えている。
- 3 環境科学と生命科学に関する知識・技術・情報を自ら収集・理解し、それらを活用して研究する能力を備えている。
- 4 環境に関する専門英語を理解し、英語による基礎的なコミュニケーション能力を有している。
- 5 豊かな人間性と環境保全に対する高い倫理観を有し、協調性や指導力をもって他職種と協働・連携することができる。
- 6 環境計量と環境・生体影響評価に関する知識や技術を修得し、環境保全や食の生産に貢献することができる。

＜平成 30 年度以前入学生＞

生命科学の体系的な教育を基盤として、科学英語や情報教育の充実により国際的に通用するコミュニケーション能力を有し、食と環境と健康に関する地域社会の課題からグローバルな問題までの解決に貢献できる科学者、高度専門技術者および管理栄養士を育成する。学位授与は、食品栄養科学部に所定の期間在学し、学部教育理念・教育目標に沿って設定した授業科目を履修して、基準となる単位数以上を習得することを要件とする。習得すべき科目には、講義科目のほか、演習や実験・実習、フィールドワークや卒業研究論文作成等の科目が含まれる。

食品栄養科学部の卒業要件は、次表のとおりである。

(令和 4 年度以降入学生)

学科	全学 共通科目	学部 基礎科目	専門教育科目		合計
			必修科目	選択科目	
食品生命科学科	14 単位	22 単位	77 単位	20 単位 以上	133 単位 以上
栄養生命科学科	14 単位	22 単位	84 単位	17 単位 以上	137 単位 以上
環境生命科学科	14 単位	22 単位	54 単位	34 単位 以上	124 単位 以上

(令和 3 年度以降入学生)

学科	全学 共通科目	学部 基礎科目	専門教育科目		合計
			必修科目	選択科目	
食品生命科学科	14 単位	22 単位	77 単位	20 単位 以上	133 単位 以上
栄養生命科学科	14 単位	22 単位	82 単位	17 単位 以上	135 単位 以上
環境生命科学科	14 単位	22 単位	54 単位	34 単位 以上	124 単位 以上

(令和 2 年度以降入学生)

学科	全学 共通科目	学部 基礎科目	専門教育科目		合計
			必修科目	選択科目	
食品生命科学科	14 単位	30 単位	79.5 単位	14 単位 以上	137.5 単位 以上
栄養生命科学科	14 単位	30 単位	80 単位	17 単位 以上	141 単位 以上
環境生命科学科	14 単位	30 単位	52 単位	34 単位 以上	130 単位 以上

(平成 31 年度入学生)

学科	全学 共通科目	学部 基礎科目	専門教育科目		合計
			必修科目	選択科目	
食品生命科学科	14 単位	30 単位	82.5 単位	12 単位 以上	138.5 単位 以上
栄養生命科学科	14 単位	30 単位	85 単位	17 単位 以上	146 単位 以上
環境生命科学科	14 単位	30 単位	52 単位	34 単位 以上	130 単位 以上

【国際関係学部ディプロマポリシー概要】

＜平成 31 年度以降入学生＞

（国際関係学科）

国際関係学科は、現代の国際社会、国家、および地域社会が抱える諸課題を発見し、その解決策を探究できる人材を育成することを目標としています。このための専門課程として、国際公共政策、国際開発、共生社会の3つの専門プログラムを設置しています。学生はいずれかの専門プログラムを選択し、所定の科目を修得することで学士（国際関係学）の学位を授与されます。授与に際しては以下の内容が重視されます。

1. 国際関係にかかわる研究領域について、学術的読解・表現力、外国語によるコミュニケーション能力、基礎的教養、地域研究能力等の基礎的な研究技法を身につけている。
2. 国際関係にかかわる研究領域の学知に習熟し、その観点から特定の研究課題を発見し、必要な情報を収集・分析して、批判的かつ論理的な思考力によって探究できる能力と、その成果を他者と共有し得る能力を備えている。
3. 国際社会、国家、および地域社会がかかえる様々な諸課題についての多角的な知識を有し、修得した研究技法を柔軟に応用することを通じて、国際社会から地域社会に至る幅広い射程のもとで、社会の現状と課題を的確に理解することができる。
4. 修得した学知を通じて、国際社会、国家、および地域社会が抱える諸課題に対して、その前提を再考したり、新たな課題を発見したりしながら、他者と協働して課題解決に取り組むことのできる実践的な能力を備えている。

（国際言語文化学科）

国際言語文化学科は、世界の言語と文化の多様性を理解し、実践的なコミュニケーション能力をもって、国境を越えて人と人をつなぐ架け橋となり得る人材を育成することを目標としています。このための専門課程として、グローバル・コミュニケーション、比較文化、日本研究、アジア研究、ヨーロッパ研究の5つの専門プログラムを設置しています。学生はいずれかの専門プログラムを選択し、所定の科目を修得することで学士（国際言語文化学）の学位を授与されます。授与に際しては以下の内容が重視されます。

1. 国際関係にかかわる研究領域について、学術的読解・表現力、外国語によるコミュニケーション能力、基礎的教養、地域研究能力等の基礎的な研究技法を身につけている。
2. 国際関係にかかわる研究領域の学知に習熟し、その観点から特定の研究課題を発見し、必要な情報を収集・分析して、批判的かつ論理的な思考力によって探究できる能力と、その成果を他者と共有し得る能力を備えている。
3. 世界の言語と文化についての豊富な知識を持つことによって、それらを的確に理解し、分析する能力を獲得し、グローバルな視野と柔軟な姿勢を身につけている。
4. 多様な言語と文化の理解を前提とした実践的なコミュニケーション能力を獲得することを通じて、様々な言語文化的背景を持った人々と円滑に協働することができ、言語や文化の壁を越えて、人と人をつなぐ架け橋となり得る能力を備えている。

国際関係学部の卒業要件は、次表のとおりである。

(平成 31 年度以降入学生)

科目区分				単位数					
				必修	選択 自由選択	合計			
全学共通科目					8 単位	124 単位			
専門 教育 科目	ラーニング・ クラスター	アカデミック・リテラシー			8 単位				
		英語コミュニ ケーション	フレッシュマンイン グリッシュⅠA・B フレッシュマンイン グリッシュⅡA・B 英語コミュニケーシ ョンA・B	6 単位					
							課題探究型英語Ⅰ		4 単位
							課題探究型英語Ⅱ		4 単位
							地域実践力	地域言語	
		地域研究・フィ ールドワーク		8 単位					
		学部基礎科目			8 単位				
		ブリッジ科目					12 単位		
	専門プログラム				20 単位				
自由選択科目				26 単位					
演習			4 単位						
卒業研究			8 単位						

【経営情報学部 ディプロマポリシー概要】

＜平成 31 年度以降入学生＞

学生は、所定の科目を習得することで学士（経営情報学）の学位を授与されるが、授与に際して以下の内容が重視される。

- 1 「経営」「総合政策」「情報」「観光」「数理」を深く学ぶことによって、それらを活用することができる能力を身に付けている。
- 2 自ら研究課題を設定し、必要な情報を収集・分析して、論理的な思考力によって課題を探究し、克服していく能力と、自己の見解を文字及び口頭で表現できる能力を備えている。
- 3 企業や地域社会への高い関心とそれらへの貢献に対する意欲を持ち、社会の様々な場で円滑なコミュニケーションを図ることができる。
- 4 習得した知識や技能を柔軟に応用し、実社会で十分に活躍できる能力がある。

＜平成 30 年度以前入学生＞

学生は、所定の科目を習得することで学士（経営情報学）の学位を授与されるが、授与に際して以下の内容が重視される。

- 1 「経営」「総合政策」「情報」「数理」を深く学ぶことによって、それらを活用することができる能力を身に付けている。
- 2 自ら研究課題を設定し、必要な情報を収集・分析して、論理的な思考力によって課題を探究し、克服していく能力と、自己の見解を文字及び口頭で表現できる能力を備えている。
- 3 企業や地域社会への高い関心とそれらへの貢献に対する意欲を持ち、社会の様々な場で円滑なコミュニケーションを図ることができる。
- 4 習得した知識や技能を柔軟に応用し、実社会で十分に活躍できる能力がある。

経営情報学部の卒業要件は、次表のとおりである。

（平成 27 年度以降入学生）

学科	全学 共通科目	学部 基礎科目	専門教育科目		合計
			必修科目	選択科目	
経営情報学科	8 単位以上 16 単位以下	44 単位	12 単位	62 単位以上 70 単位以下	134 単位

※ 専門教育科目（選択）と全学共通科目を合わせて 78 単位を修得すること。

※ 平成 31 年度以降入学生は、卒業までに少なくとも 1 つのメジャー認定を受けること。

【看護学部ディプロマポリシー概要】

下記の能力・資質を修得・涵養し、時代の要請と地域社会の要望に応え得る人材に学位を授与する。

- 1 幅広く深い教養を身につけ、「ひと」および「ひと」を取り囲む生活や地域社会、環境への関心を持つことができる。
- 2 豊かな人間性と倫理観を持ち、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。
- 3 あらゆる「ひと」と地域社会の健康課題とそれらに対する対応を統合的に考えることができる。
- 4 保健医療福祉のチームの一員として協働でき、地域社会の課題解決に取り組むことができる。
- 5 地域・国際的動向をふまえ、保健医療福祉の課題における看護の必要性と役割を理解し、責任ある行動を取ることができる。
- 6 看護学の発展に対応するために、探究心を持ち主体的に学ぶことができる。

看護学部の卒業要件は、次表のとおりである。

(令和4年度以降入学生)

学科	・基礎分野Ⅰ (全学共通科目) ・基礎分野Ⅱの 「運動」、「研修」、 「教育」含む	基礎分野Ⅱ	専門基礎 分野	専門分野	合計
看護学科	選択 10 単位以上	必須 7 単位	必修 28 単位 選択 4 単位	必修 77 単位 選択必修 2 単位	126 単位

(令和3年度以前入学生)

学科	・基礎分野Ⅰ (全学共通科目) ・基礎分野Ⅱの 「運動」、「研修」、 「教育」含む	基礎分野Ⅱ	専門基礎 分野	専門分野	合計
看護学科	選択 10 単位以上	必須 7 単位	必修 28 単位 選択 4 単位	必修 76 単位	125 単位

(平成29年度以前入学生)

学科	・全学共通科目 ・学部基礎科目の 「運動」「研修」「教 育」含む	学部基礎科目	専門教育科目	合計
看護学科	選択 10 単位以上	必修 39 単位 選択 4 単位	必修 77 単位 選択 3 単位	133 単位

卒業の認定に
関する方針の
公表方法

下記の URL にて、ディプロマポリシーや卒業要件を公開している。

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/guide/philosophy/policy/>